

平成 29 年度（2017 年度）
吹田市立図書館点検・評価報告書

平成 31 年（2019 年）1 月 25 日

吹 田 市 立 図 書 館

この点検・評価報告書は、図書館法（昭和25年4月30日法律第118号）第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館基本構想」（平成25年4月策定）を策定し、平成25年度（2013年度）から10年間の図書館活動の指針を明らかにしています。その第2章3のサービス計画の中で3つの基本目標を設定しています。この基本目標に沿って作成したアクションプラン（別表）の課題と各事業について自己評価と外部評価を行います。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

基本目標 2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

基本目標 3 子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。

評価の基準

- A 計画どおり取組みを実施し、目標を上回る成果があった。
- B 目標どおり取組みを実施し、一定の成果をあげた。
- C 取組みを実施したが、十分な成果をあげることができなかった。
- D 実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。

この基本目標とその取組みごとに、図書館の自己評価をするとともに、図書館協議会より外部評価を得るものとします。

〔凡例〕

※文中網掛け部分は、「平成29年度（2017年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」【主な事業の計画】に掲載しているものです。

※文中、表に示している図書館名は次のように省略しています。

中央図書館→「中央」、千里図書館→「千里」、千里図書館北千里分室→「北千里」、さんくす図書館→「さんく」、江坂図書館→「江坂」、千里山・佐井寺図書館→「ちさと」、千里丘図書館→「千里丘」、山田駅前図書館→「山駅」、山田駅前図書館山田分室→「山田」

基本目標 1

地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

取組み 1 図書館施設及びサービス網の整備

(1) 中央図書館の充実（再整備）

ア 中央図書館の整備計画策定を目指し、関係部署との調整を図る

市の施設の維持管理と適正化を目指した吹田市公共施設最適化計画推進委員会作業部会において老朽化した施設の再整備の議論がされています。

図書館については耐震診断の実施が認められ、29年度に予算化されました。その結果を以て耐震と改修工事が実施されることになりました。

イ 新・中央図書館建設時に書庫機能の整備を図る

(2) 図書館利用不便地域の解消

ア 岸部地域への施設整備を行い図書館サービス網の完成を図る

健都（北大阪健康医療都市）内での図書館整備を進めています。

イ 自動車文庫の活用

利用不便地区への巡回の継続 岸部、青葉丘、南吹田

(3) 図書館の広域利用促進

ア 北摂地域全体の広域相互利用の実施

平成29年7月から北摂7市3町での図書館広域利用が始まりました。

(ア) 豊中市（試行）

豊中市との広域利用統計				
	平成28年度		平成29年度（4～6月）	
	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）
豊中市民利用	10,642	22,778	2,460	5,333
吹田市民利用	12,102	32,882	3,212	8,962

(イ) 摂津市（試行）

	平成28年度		平成29年度（4～6月）	
	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）
摂津市民利用	5,485	15,368	1,301	3,682
吹田市民利用	1,594	5,778	584	1,816

イ 大阪市との広域利用（試行）

平成26年7月から大阪市民がさんくす図書館を利用しています。

	平成28年度		平成29年度	
	登録者数(人)	貸出冊数(冊)	登録者数(人)	貸出冊数(冊)
大阪市民利用	376	7,307	496	6,700
吹田市民利用	1,207	42,949	1,141	42,284

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果1〕 図書館協議会から答申をいただいている中央図書館の再整備については、施設維持の検討材料となる耐震診断が行われました。

〔成果2〕 北大阪健康医療都市内の健都レールサイド公園での図書館整備が進んでいます。

〔成果3〕 平成29年7月より北摂7市3町で図書館の広域利用が始まり、それぞれの市から来館がありました。

〔課題1〕 老朽化の進む中央図書館の再整備については、耐震診断の結果を以て、耐震化工事改修工事が実施されることとなります。できる限り使いやすい施設改修を目指します。

〔課題2〕 隣接都市の大阪市との広域利用は現在、さんくす図書館で実施しています。要望の多い江坂図書館での実施をめざします。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果1〕 (仮称) 建都ライブラリーの建設が進んでいる。吹田市立図書館ネットワークの拠点として、明確に位置付けられたことは、長年地区図書館の建設を望んでいた岸部地区の住民にとっても、誠に喜ばしい。

〔成果2〕 吹田市立図書館協議会は平成27年11月24日「吹田市立中央図書館の再整備のあり方について」答申をした。中央図書館耐震工事が決まった。整備計画策定を目指して着実な第一歩として評価したい。

〔成果3〕 北千里小学校跡地複合施設整備についても市内、地元との協議が進んでいる。

小さいながらがんばっている北千里分室の今後に期待したい。

〔成果4〕北摂地域と大阪市、近隣都市の広域利用も着実進み、近隣市民を含め、全体にとって利用の便がおおいに高まった。

〔課題1〕（仮称）健都ライブラリー開館、また北千里地域の施設整備にあたっては地域住民の希望を十分に生かして欲しい。吹田市行政の中で、中央図書館の再整備の議論が高まって欲しいと期待している。そのためにも、各地域図書館のより一層のサービス向上に努力して、市民の図書館への期待と支持を得られるようご努力をいただきたい。

〔課題2〕千里図書館と北千里分室は座る場所が少ないので、落ち着かない。千里ニュータウンは新しい世帯も増えつつあるので、町の住民構成も変化している。今後開館予定の図書館では、「居場所として」くつろげる空間を望みたい。千里ニュータウンプラザ内の多様な施設との連携が目指されているので、生涯学習の拠点としての役割を強めて欲しい。

取組み2 利用促進

（1）年間貸出冊数の目標達成

平成29年度個人貸出点数			
実績	3,549,724点	目標値	約392万点

平成34年度末に人口一人あたり12点を目標に掲げ、約432万点の貸出を目指しています。平成29年度の目標は約392万点で、目標への達成率は90.6%でした。ICタグを利用した図書館システムの導入により自動貸出機、返却機、予約照会機、予約棚、ゲートを運用しています。図書館のスタッフの手を経ずに資料の借出しをすることでプライバシー保護の向上と運営費用の削減につながっています。

（2）広報、情報発信機能の推進

ホームページコンテンツの充実とSNS利用で情報発信機能の向上を図る。

公式アカウントによるFacebook、Twitterでの情報提供を続けています。

ホームページにおいて児童向けや地域資料のコンテンツの充実を図るとともに、各ページの使い勝手の向上を目指しました。

	ホームページアクセス推移 (件数)	
	平成28年度	平成29年度
蔵書検索	6,008,077	6,441,997
携帯版	17,016	22,411

SNS 投稿件数 (件数)		
	平成 28 年度	平成 29 年度
Facebook	520	532
Twitter	738	628

(3) 来館困難な人へのサービス

ア 郵送貸出の実施

障がい者で図書館への来館に困難を伴う方々への郵送貸出をしています。

イ デジタルデータの公開を行う

地域資料等のデジタル化とホームページで写真や新聞記事見出し索引、地域件名等のデータベースの公開をしています。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果 1〕 貸出点数は目標点数に達しませんでした。利用者一人あたりの貸出点数は昨年度に続き 50 点を超過しており自動貸出機の導入による、利便性の向上の成果が出ているものと思われます。

〔成果 2〕 Facebook、Twitter、メールマガジンでの情報提供を実施しています。Facebook では写真を使った行事報告や、最寄りの図書館に興味を持ってもらえるよう自館の PR 記事と、周辺の地域の話題なども館ごとに月 1 回のペースで掲載しています。

Twitter では、おすすめの資料、本日あるいは近日中の開催行事を日替わりで紹介することで、読みたくなる、行きたくなる仕掛け作りを続けています。

システム更新時に一度下がった「メールマガジン」や新着図書お知らせサービスの利用件数が回復し、前年度より大幅に増加しました。「メールマガジン」登録数は過去最高になっています。

〔課題 1〕 SNS については投稿数の回復を目指していましたが、今後はリアクションの増加を意識して目指していきます。

〔課題 2〕 現在の登録者数に対する利用者数は 62% 程度となっているためリピート率を高める仕掛けづくりが必要と考えます。

〔課題3〕読書離れ活字離れが言われる中、新規登録者を増やす取組みを考えていきます。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果1〕館外貸出数は大阪府内市立図書館の中でもトップクラスにランクされている。特にアクセスの良い、千里図書館、山田駅前図書館はよく利用されている。利用者の利便性を考え、サービスされていると思う。ICタグ導入による予約・貸出・返却など利用者にも定着してきた。

メールマガジンでは「新刊紹介」や「調べ物手伝います」では、図書館らしい情報が発信されている。Facebook、Twitterでの情報発信は画像やすいぽん等とともに親しみやすい頁になっている。

〔成果2〕Twitterは最新の情報を提供していて面白い。情報の幅がずいぶん広がって、思いがけない情報に出会えることがある。防災情報など発信されていて、市民に必要とされている情報が発信されている。Facebookも市民参加のいろいろな活動が発信されている。

〔課題1〕自動貸出機の導入は、とても便利でカウンターで待たず貸出を済ませるのが利点だが、予約棚で予約本を見つけにくい人がいらっしゃるのが気になる。十分な対応と、もう少しわかりやすい棚づくりを望む。子供たちにとっては、カウンターの司書との対話が読書にもつながることを考えると、できるだけ対話ができる環境づくりが大事と思われる。

〔課題2〕新規の利用者を増やすための仕掛けづくりは課題である。おもしろそう、行ってみたいくなる、などそれぞれの目的が違うのは当然だが、雑誌コーナーや話題本の充実、座り心地のいい椅子の配置とか、明るい館内、話かけやすいカウンターなど、居場所としての魅力的な図書館づくりを望む。

〔課題3〕SNSに関しては、どれだけ発信したかという量の評価も大事だが、今後はどれだけ読まれたか、どれだけ拡散したかという質の評価も重視してほしい。

取組み3 資料と情報の提供

(1) 成人サービス

ア 読書情報の提供（おすすめ本やパスファインダー等）

読書の楽しみを知ってもらうために各館で特設コーナーを設置し、本の紹介をして

います。設置に合わせて、リストの作成などを行いました。また、文学賞受賞や作家の訃報などの時事に合わせたミニ特設を設置しています。平成25年度からTwitterによるおすすめ資料「今日の1冊」の紹介をしています。千里丘図書館では「今日の1冊」のコーナーで実際に本を手にとってもらえるようにしています。調べもの支援のため各種のパスファインダー(※)を作成し、各図書館で設置しています。 ※パスファインダー：テーマ別の課題解決のための調査方法案内（図書リストを含む）

イ 各種図書館講座の充実と文化行事の実施

平成29年度成人向け講演会等行事参加人数			
実績	3,287人	目標値	5,000人

※リサイクルフェアを除く

【成人向け講演会等行事参加人数内訳】

	中央	千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	計
回数	20	29	9	10	15	27	19	129
人数	466	920	415	875	250	217	144	3,287

※北千里分室は千里図書館に、山田分室は山田駅前図書館に含めます。

ウ 行事の開催等による新規利用者の獲得

昨年度に引き続き医療情報講座を企画しました。利用者参加型行事として千里丘図書館で作品展示を利用されている方を講師として講座を開催しました。千里図書館やさんくす図書館の多目的室を利用した写真展示会が好評でした。文化スポーツ推進室との連携事業で運動講座を実施し、各館で好評を得ています。

(2) レファレンス事例や地域資料データベースの充実

ア レファレンス（調査回答）件数

	中央	千里	さんくす	江坂	ちさと	千里丘	山駅	計
一般	2,842	2,849	1,659	1,415	1,879	1,194	2,100	13,938
児童	511	380	81	418	338	145	356	2,229
計	3,353	3,229	1,740	1,833	2,217	1,339	2,456	16,167

平成28年度受付件数 29,111件

※平成29年度より件数カウントの方法を変更し、クイックレファレンス（書架案内や簡単な調査）の件数は含みません。

※北千里分室は千里図書館に、山田分室は山田駅前図書館に含めます。

イ レファレンス事例のデータベース化

吹田市立図書館で調査回答したレファレンス事例を国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録、公開しています。今後も研修に努めレファレンス能力の向上に努力していきます。

ウ 地域資料の収集保存とデータベース化

地域資料増加冊数 347冊

新聞等地域件名データ新規作成件数 1,661件

エ 大学図書館や類縁機関との連携

類縁機関、大学などに閲覧、複写希望の方の紹介状を発行しています。

大学との連携協力に関する基本協定に基づき、各大学との連携を行います。

大学図書館の市民利用登録の広報に協力しました。

大和大学の共同研究「公共図書館における知的障がい者のための合理的配慮のあり方に関する研究」に協力し講座の開催等に取り組みました。

(3) 行政支援サービス

ア 公用貸出冊数（市職員への業務用貸出数）

平成29年度 50冊

イ 行政向けの政策立案支援サービス

行政職員向け新着図書案内サービスを毎月行い、問い合わせも少しずつ増え、19件の調査相談に回答しました。今後も本庁に向けて政策立案支援サービスをより積極的に周知することで、利用促進に取り組みます。

ウ 連携事業

環境部の依頼で講演会に合わせて講師の著作や生物多様性に関連する資料展示を実施し、SNSでも講演会と著作の紹介の情報発信に取り組みました。

(4) 児童サービス

ア 各種図書館講座の充実と文化行事の実施

平成29年度児童向け行事参加人数			
実績	11,090人	目標値	19,000人

【児童向け行事参加人数内訳】

(ア) おはなし会（「ブックスタートのひろば」「おひざで絵本」をのぞく）

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	141	93	20	106	53	47	28	74	7	569
人数	1,139	701	85	606	337	340	126	659	172	4,156

(イ) 子どもと本のまつり、おたのしみ会、一日図書館員、その他

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	63	24	13	22	15	33	25	32	8	245
人数	1,411	633	498	861	272	1,582	557	920	200	6,934

BM 3回151人

イ 図書情報の提供

平成29年度冊子発行部数 (YA向け冊子「てくてく」を含む)			
実績	17,204部	目標値	13,000部

【情報提供冊子発行部数内訳】

(ア)「おめでとう1年生」配付部数 4,204部

(イ)「もうよんだかな? '17(第43号)」 8,500部

※「おめでとう1年生」は、市立小学校の1年生全員に利用案内やおすすめ本の紹介の載ったリーフレットを配付し、各図書館で4月に特設コーナーを設置しています。

「もうよんだかな?」は、4、5歳から小学校高学年を対象に、前年に出た本のなかからおすすめの本を図書館の司書が選び冊子にして紹介しています。ミニ版は市内小学生全員に配付しています。夏休みに特設コーナーを設置しています。

(ウ) 児童向けホームページ

平成28年2月に公開しました。子ども向けのレファレンスや図書館の使い方の説明など充実させました。

(5) ヤングアダルト (YA) サービス

※中高生世代向けサービス

ア 主な取組み

各館とも、YA向きのテーマを決めた特設コーナーを設置し、・仕事や職業…中央、千里、さんくす、江坂、山田駅前 ・又吉さんのおすすめの本…ちさと、さんくす
・LGBT…ちさと などテーマに沿った展示を行いました。

・中央図書館 YAサポーターの運営による「チャレンジ」をテーマとしたビブリオバトルの開催

・さんくす図書館 YA特設コーナーに「10代オモシロイ本掲示板」を設けて、YA世代が本の紹介ポップを投稿し、図書館がコメントをつけて掲示

・千里山・佐井寺図書館 YAサポーターによる英語の絵本の読み聞かせ

イ YAサポーター行事参画状況

中高生世代の行事参加人数			
実績	59人	目標値	40人

【行事参加人数内訳】

(ア) YAサポーター活動状況

中央図書館 10回 参加のべ人数 45名

千里山・佐井寺図書館 4回 参加延べ人数 8名

山田駅前図書館 5回 参加のべ人数 6名

(イ) YAビブリオバトル実施

中央図書館 7月23日 参加人数 22名

※参加人数には成人を含みます。

(ウ) 参加型企画

YA向け冊子「てくてく」表紙イラストカット募集	18点
YA向け冊子「てくてく」吹田のYAが選ぶおススメの本	51点
10代オモシロイ本掲示板	15点

ウ YA向け冊子「てくてく」「サポーター通信」の発行

「てくてく」平成29年度(第33号) 4,500部

※「てくてく」は、中高生世代を対象に、前年に出た本のなかからおすすめの本を図書館員が紹介するとともに、吹田市の中高生世代によるおすすめ本の紹介とイラストなども掲載している冊子です。ミニ版(ダイジェスト版)は、市内中学生全員に配付しています。夏休みには各図書館で特設コーナーを設置し、応募原稿の全館巡回展示をしています。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果1〕中央図書館と山田駅前図書館で中高生サポーターを募集し、ビブリオバトルなどの行事の取組みや、応募してもらった作品の巡回展を行って同世代の興味を喚起しています。中高生世代の利用を増やす取組みとして、図書館を体験することのできる職業体験の受入れ方法を工夫して成果をあげています。

〔成果2〕新聞記事の見出しや地域件名データを市民がインターネットを通じて検索するためのデータの追加更新をボランティアの力も借りながら続けています。

〔成果3〕児童向けのパスファインダーを作成しました。

〔成果4〕学校への団体貸出しをスムーズに行うため「ごりまる便」や「ごりまる学校訪問」「もう読んだかなセット」の申込みをインターネット化し利便性を向上させました。

〔課題1〕市民を資料に結び付ける機会を提供するために行う行事等の参加人数は目標値に達していません。一人でも多くの人に本との出会い、人との出会いの場を提供し、その後の図書館利用につながるような取組みを企画します。

〔課題2〕調べもの支援のためのパスファインダーについては、今後分野を増やしていく

予定です。児童向けについてはパスファインダーのPRと分野を増やしていくことが課題です。

〔課題3〕学校への団体貸出しの受付のインターネット化と学校への定期連絡便の運行の実施が課題です。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果1〕YA向け冊子「てくてく」をはじめ、取組みの難しいYAサービスもがんばっている。

「てくてく」掲載の若い人の描いたイラストがホームページのYAのページで見るともうれしい。

「調べもの相談」では「国立国会図書館レファレンス協同データベース」にアップされたレファレンスの事例が多く掲載されていて、市民が「こんなことも図書館で調べてくれるんだ。」と知ることができる。吹田市立図書館が国会図書館や大阪府図書館につながっていることが分かる。

パスファインダーも「療養・介護」など身近な主題で、配布され、ホームページでも見ることができる。

行政職員向けの情報支援が徐々に定着してきている。各行政部門での政策立案や企画にも図書館員の情報力が信頼されるように進めていただきたい。

吹田の歴史や今を知る資料の収集・整理などと写真展開催など、図書館らしい積極的な取り組みが進められている。

〔成果2〕児童向け冊子「もうよんだかな」や、ヤングアダルト向けの「てくてく」はとても評判がよい。個人的にもよく利用している。YAのサポーター活動も評判がよい。

〔課題1〕学校への支援の重要なのは要求の素早い対応と物流の確保だ。学校への定期連絡便運行の実施については、学校現場で「連絡便があったら、もっと活用できるのに。」という機運づくりが必要だろう。学校現場が忙しく、先生方も余裕がないのは分かるが学校図書館を活用した学習の取組みが大きな成果を生むことの理解を広めて欲しい。

〔課題2〕ヤングアダルトコーナーについてももう少し充実してほしいです。特に中央図書館は自習室があるので、そこを利用する彼らが使えらるコーナーとしても充実させてほしい。YA世代は余り目につくのはいやがるので、そこは配慮して、例えば、

仕切りをするなどの工夫はある。改修後に期待している。

〔課題3〕多くの方が参加できる行事やイベントをヒントにして、より人が集まってきやすい取組みを展開していく必要がある。

〔課題4〕読書情報の提供では、Twitter等での書評を図書館実習生等若い人をお願いしたら、図書館と利用者のやり取りが生まれるのではないか。

基本目標 2

生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

取組み1 施設や地域との連携

(1) 男女共同参画センター情報ライブラリー、平和祈念資料館などとの連携

横断検索や返却本の受付を行い、相互の施設で行事案内をしています。

(2) 児童会館・児童センターとの連携

図書館の保存年限を過ぎた子育て雑誌を移譲し、有効活用を図っています。

(3) 他部局との連携

文化スポーツ推進室との連携事業の運動講座が好評でした。

(平成28年 25回 323人 平成29年 7回 108人参加)

公民館等へ講師派遣をしています。

千里図書館では千里丘市民センターの依頼により防災イベントで防災に関する資料リストを作成しパネル展示に協力しました。 昨年に引き続き都市計画部と豊中千里ニュータウン連絡会議と連携し写真展とフォトトークイベントを開催しました。また、地域経済振興室と連携して「起業コーナー」を設置しました。「起業」に特化した選書と雑誌パンフレットの展示を行っています。

(4) 吹田市出前講座の充実と活用

平成29年度出前講座等講師派遣実施件数			
実績	34件	目標値	6件

平成28年度23件

【出前講座等講師派遣内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	6	7	0	4	2	5	3	6	1	34
人数	125	121	0	221	48	495	48	67	20	1,145

図書館出前講座メニュー数 10講座

(5) 地域との連携

ア 各図書館で児童サービスコーナーに地域の保育所や子育て関連施設のパンフレット、逐次刊行物を置くほか市内施設案内パンフレットや催し物に関するチラシなどを設

置して地域情報の共有に努めました。

- イ 地域の公民館や自治会、隣接する施設に行事等の案内を配布し、図書館利用の促進に努めました。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果1〕 出前講座や連携講座等の実施で図書館へのアピールにつなげています。

〔成果2〕 吹田市の他部局との連携をさらに進めるため、各種の依頼にはできるだけ応えるようにして信頼できる施設としての位置づけを確かにするよう努めています。

庁内LANへの掲載の効果もありコラボ企画も持ち込まれるようになっていきます。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果1〕 市民の大きな関心である健康講座が活発に行われている。文化スポーツ推進室との連携の成果だ。防災のイベントも地域との連携、市民の参加があって生きたサービスになっている。

地域の公民館や自治会、隣接する施設に行事等の案内を配布する努力は大切だ。

市役所庁内LANへの掲載は積極的なサービスとして活用されている。

〔課題1〕 情報提供をしたり、行事に参加した利用者、行政職員、児童から意見や評価を聞いて、今後の取組みの展開を考えていく必要がある。

〔課題2〕 他部局との連携では、図書館の活動を市役所内でも理解してもらいつつ、コラボして、図書館事業をさらに推し進めてほしい。

取組み2 自己実現の援助

(1) ボランティア活動の推進

平成29年度ボランティア総数			
実績	575名	目標値	780名

※目標値は平成34年度に1,000名登録を目標に、年45名増を目指しています。

ア ボランティア登録状況 24団体575名（達成状況78%）

※平成28年度 ボランティア登録状況 25団体 569名

イ ボランティア養成状況

(ア) 児童サービス関係

- ・ブックスタート等のためのお話ボランティア養成講座 6回 延人数 96人
- ・ブックスタートのためのお話ボランティアスキルアップ講座 1回 51人
- ・ブックスタートのひろばとおひぎで絵本のためのお話ボランティアスキルアップ講座 2回 92人

(イ) 障がい者サービス関係

- ・音訳対面朗読ボランティア養成初級講座 11回 延人数 119人
- ・音訳対面朗読ボランティア養成中級講座 10回 延人数 51人
- ・音訳対面朗読スキルアップ講習会 8回 延人数 39人
- ・デジジー図書製作・編集・使い方講座、プレ講座 9回 延人数 59人
- ・点訳ボランティア養成初級講座 10回 延人数 85人

ウ 主なボランティア活動状況

【イで養成したボランティアと説明会に参加して図書館に登録した図書館フレンズの活動状況】

	平成29年度	平成28年度
ブックスタートのひろば実施回数	1,221回	1,221回
おひぎで絵本実施回数	382回	441回
対面朗読実施回数	775回	651回
音訳・点訳図書製作数	159タイトル	115タイトル
図書館フレンズ活動回数 (活動内容：イベント補助、館内装飾、 データ入力、地域資料整理、緑化)	244回 (延参加人数554人)	222回 (延参加人数473人)

【図書館フレンズ活動回数内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	26	40	6	15	17	70	37	21	12	244
人数	50	93	8	44	34	161	89	45	30	554

(2) 自己実現へ向けての動き

千里図書館で開催したさわる絵本づくり講座の受講生による「さわる絵本一步の会」が設立され、その後も活動を継続されています。

(3) 各事業への市民参画による企画立案

市民団体等の企画による行事

図書館名	ボランティアグループ等の企画による実施行事	企画グループ等名称
ちさと	ちさと暮らしに役立つ講座 かがくあそび	吹田図書館ともの会
江坂	江坂ロビーフェスタ	技芸精舎

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

〔成果1〕ボランティアの登録人数は、高齢化等の影響でわずかに減少していましたが、平成29年度も前年度に引き続き障がい者サービス対応ボランティア登録者数が増加しました。

〔成果2〕市民団体等の企画による行事を主催、共催等で実施しています。また「図書館講座じゅずつなぎ」では市民のニーズも考慮しながら吹田にゆかりのある人や地域住民を講師に招いた講座を実施して好評を得ています。

〔成果3〕図書館フレンズは平成28年に比べ、登録者数・継続登録率とも減少しましたが、活動回数・延参加人数は増加しました。

〔成果4〕平成29年度、図書館フレンズの登録者にアンケートを実施し、活動については65%の方から「とてもよい」「よい」とのご意見を多くいただきました。

〔課題1〕ボランティア登録数が目標に達しません。人数を増やす事だけが重要ではないですが、養成講座修了者の登録促進や継続促進を続けます。

〔課題2〕図書館フレンズのメンバーに実施したアンケートの御意見を活かし活動内容をより一層充実し、登録者の定着を図ります。また、市民への図書館フレンズ活動のPRに努めます。

〔課題3〕催し物や各種講座等に企画段階から市民の意見を取り入れる仕組みづくりを目指します。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果1〕図書館でのボランティア活動は図書館が市民と共に歩むための大きな柱だ。吹田市立図書館では長年培われてきた協働関係がある。特に児童サービス、障がい者サービスの面では大きな力となっている。さわる絵本の講座等、活動が継続されている。市民団体の企画による行事が図書館で実施されるのも市民の中に図書館が定着されていることを表している。今後の施設設計でも活かして欲しい。

〔課題1〕図書館フレンズに参加して下さる方が自己実現できる取組みであり、息の長い付き合いの中で図書館に対する市民の気持ちが深まっていると感じるので図書館サービスの進展のためにじっくり育てて欲しい。

〔課題2〕ボランティアから集めた意見に基づき、ボランティア活動の更なるブラッシュアップを図る。

取組み3 障がい者並びに来館困難者へのサービスの充実

(1) 視覚障がい者サービス

ア 対面朗読実施回数 775回

※平成28年度 651回

イ 音訳図書・点訳図書製作件数 159タイトル

(ア) テープ図書 11タイトル ※平成28年度 17タイトル

(イ) デイジー図書 121タイトル ※平成28年度 82タイトル

(ウ) 点訳図書 27タイトル ※平成28年度 16タイトル

ウ 音訳図書貸出件数 3,843タイトル

※平成28年度 3,368タイトル

エ 音声デイジー再生機(プレクストーク)貸出回数 19回

オ 平成25年度からサピエ(※)に録音図書の書誌と点字図書のコンテンツを登録し、全国から利用されています。

※サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク):点字データや音声データの全国ネットワーク。

(2) 来館困難者へのサービス

ア 自動車文庫による福祉施設等への貸出 11施設 貸出冊数 4,703冊

※平成28年度 11施設 4,860冊

イ 身体障がい者等への郵送貸出登録者数 16人 貸出冊数146冊

(3) 聴覚障がい者サービス

ア 職員の手話講座受講

イ 講座への手話ボランティアの配置 1回

ウ 音声解説・日本語字幕付き映像資料のリストを作成

(4) 障がい児サービス

視覚障がいの児童へ小学校の読書活動支援者を通じて点字資料の貸出を行いました。

(5) その他障がい者へのサービス

- ア 「ユニバーサルコーナー」（千里山・佐井寺図書館）を設置しています。中央図書館、さんくす図書館では「やさしくよめるほん」のコーナーを開設しました。
- ※「ユニバーサルコーナー」や「やさしくよめるほんコーナー」にはLLブック、大活字本、点字図書、さわる絵本を特設しています。
- イ マルチメディアデイジー（映像つきデジタル録音図書）の利用拡大をはかるため各図書館で利用体験ができます。
- ウ LL版の利用案内「ようこそ吹田市立図書館へ」をホームページでも公開しています。
- エ 中央図書館では、知的障がい者を対象とした図書館ツアー（利用案内、館内見学）を実施（試行）しました。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

- 〔成果1〕音声デイジー再生機の利用体験を全館で実施しました。再生機の貸出とともに録音図書の貸出も増加しています。
- 〔成果2〕来館困難者への郵送貸出事業を開始しました。
- 〔成果3〕郵送貸出事業の開始にあわせ市報に図書館の障がい者サービス情報を掲載しました。
- 〔成果4〕科学研究費助成共同研究「公共図書館における知的障害者のための合理的配慮のあり方に関する研究」に参加して、知的障がい者を対象とした図書館ツアーやLLブックを中心としたわかりやすいほんのコーナーの設置などの取組みを行いました。
- 〔課題〕市役所関連部局や各団体との連携をすすめ情報提供やサービスの利用を促進します。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

A

〔成果1〕サピエへの録音図書と点字図書の登録は長年取り組んできた障がい者サービスの成果として評価できる。全国から利用されて意義深い。病院での読み聞かせボランティアへの団体貸出など大切なサービスを広げている。

〔成果2〕必要な活動をやっておられると感じました。

〔成果3〕児童サービス、障がい者サービスについてはとてもいいサービスをされていると思います。とくに障がい者サービスは、長年、ボランティアの方が熱心に携わっておられるので図書館との関係性も高いのだと思います。障がい者の方へのさらなるサービスを進めてください。

〔課題1〕医療機関や高齢者施設の施設訪問など、他機関の連携には難しい点もあるかと思うが、地域の中の図書館として、地道に取り組んで欲しい。マルチメディアデジターの貸出も取り組んでいるので、福祉部門や学校教育との連携をとり、利用を進めて欲しい。

〔課題2〕障がい者への情報発信は、市役所関連部門や各団体との連携を強め、時間をかけて進めて欲しい。

取組み4 特色あるサービス

(1) ビジネス支援サービス

江坂図書館においては、関連資料の展示と有料データベース「日経テレコン」の提供を継続し、ビジネス支援に特化した棚作りのための選書を行っています。千里図書館では起業情報サービスを始めました。

(2) 多文化サービス

ア 多言語による読み聞かせ等行事の実施 ※千里図書館及び江坂図書館で実施

平成29年度多文化関係行事回数			
実績	5回	目標値	5回

【行事等内訳】

(ア) 英語でえほんを楽しもう！(千里図書館で実施) 3回 61名参加

(イ) もっと知りたい！おとなりの国5 ベトナム(千里図書館で実施)

1回 39名参加

(ウ) 英語で母の日 (江坂図書館で実施) 1回 34名参加

イ 外国語資料の充実

外国語資料所蔵数 5,743冊

(3) 健康・医療情報サービス

保健センターの依頼により主催の講演会のテーマにあった本の紹介リストを作成提供しました。千里図書館では、大阪府済生会千里病院の協力により「健康医療情報

講座」を前年度に引続き実施しています。平成30年度に、病院への読み聞かせボランティアへの団体貸出しにつなげることができました。

(4) 就労・就業支援

さんくす図書館でコーナーを設置し、就職や仕事に役立つ資料を紹介しています。資格試験の参考書や問題集、「JOBナビすいた」等の関連施設のパフレットやちらしを置いています。平成29年度は特に利用の多い分野の資料の充実や古くなった資料の更新を図りました。

※「JOBナビすいた」は、吹田市に在住、在学、在勤の方を対象にした市の就労支援センターです。仕事の紹介の他、就労のためのセミナーや相談コーナーなどがあります。

中央図書館では就労や職業訓練に関するパフレットやチラシ、新聞折り込み求人広告を配置しています。

(5) 地域経済への貢献

平成29年度実施事業数			
実施事業数	3	目標事業数	5

【実施事業内訳】

広告事業などで地域経済の発展に寄与し資料の充実を図る。

地域経済の活性化を目的として、平成24年度から図書館の資料を貸し出す際に発行する貸出レシート及びホームページに民間企業等の広告を掲載する事業を実施しています。

(ア) レシート広告 29年度 応募なし

※貸出の時にわたすレシートに広告を掲載しています。

平成24年5月から実施。平成28年度 3社 54,000円

(イ) 図書館ホームページバナー広告 3社 60,000円

※図書館のホームページに広告枠を設け掲載しています。

平成24年11月から実施 平成28年度 2社 39,000円

(ウ) 広告掲載物品の無償提供

引き続き広告付きブックスタート用の袋の提供事業者募集を行い、応募条件の見直し等も行ってきましたが、応募が無く実現していません。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

- 〔成果1〕千里図書館では英語による絵本の読み聞かせや外国文化を知る講演会を行い、江坂図書館でも「英語で母の日」を開催しました。また、千里図書館と同じ施設内の国際交流協会主催の多言語絵本の読み聞かせ会へ資料提供等の支援を行いました。講師依頼などで施設連携が進んでいます。
- 〔成果2〕江坂図書館ではビジネス支援に特化した本棚を増やしました。特設コーナーの場所も一般雑誌やパソコンの本の近くに変更し、より利用しやすくなりました。
- 〔成果3〕広告事業については、掲載企業は地元企業が中心のため、PRに一役買うことで、市内企業の後援に寄与するために引き続き取り組んでいきます。
- 〔成果4〕「吹田保健所管内がん関係機関連絡会」で情報交換をした大阪府済生会千里病院により、千里図書館で講演会を継続実施しています。
- 〔成果5〕「療養・介護」のパスファインダー（調べものガイド）を作成し全図書館で設置配布しています。パスファインダーはホームページでも公開しています。
- 〔課題〕ビジネス支援は、地域の企業や市内で就労されている方に対して具体的に働きかけていく必要があります。ガンバ大阪との連携事業については、市の文化スポーツ推進室が担当となっています。図書館では引き続き、ガンバ大阪についての資料収集を続け、試合開催に合わせて関連資料の交換展示等に取り組みます。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

- 〔成果1〕多言語サービスの取り組みも国際交流協会などの連携の中で少しずつ進んでいる。ホームページも利用案内等は多言語対応にするなど、使いやすくなっている。江坂図書館を中心に進んできたビジネス支援サービスは「起業コーナー」が千里図書館でもとりくまれている。ビジネス資料やデータベースの充実が少しずつ進んでいる。「公共図書館に行けば、仕事に役立つ本がある。」という意味でも定着してきている。
- 〔成果2〕大阪府済生会千里病院の協力により「健康医療情報講座」や講演会等も取り組まれている。市民の関心の高い分野なので続けて欲しい。
- 〔課題1〕個別には色々やっていると思うが、各館との比較でまとめられていない。館毎の独自性を見るような評価方法にする必要がある。
- 〔課題2〕多言語の読み聞かせは地道に続けていけば、在日外国人家族への広がり、ニーズが見いだせると思う。多文化サービスは国際交流の関係団体と連携を深めながら広げて欲しい。
- 〔課題3〕吹田市の財産であるガンバ大阪も吹田市行政の中でも重要性を増している。大

阪万博とともに、ガンバ大阪の資料の蓄積は図書館らしい力を発揮すると思う。オリンピックを控えてスポーツ関連の資料もより広く、専門的なものが求められると思う。

基本目標 3

子育て支援や学校の連携を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。(「子ども読書活動推進計画(改訂)」の推進)

取組み 1 子ども読書活動支援センター機能の充実

(1) 子育て支援サービス

平成29年度ブックスタートのひろば、おひざで絵本等参加人数			
実績	17,666人	目標値	23,000人

【参加人数内訳】

ア ブックスタート事業

年度	絵本配布率	ひろば開催回数	ひろば参加人数
平成29年度	81%	1,221回	14,026人
平成28年度	85.1%	1,221回	16,161人

イ おひざで絵本 ブックスタートを終了した2、3歳児とその保護者を対象にした読み聞かせの会

年度	開催回数	参加人数
平成29年度	382回	3,640人
平成28年度	441回	3,810人

ウ 抱っこで絵本講座

※1歳の幼児とその保護者を対象に絵本の読み方のコツを伝授する3回連続講座

平成29年度 48回 参加人数 493名

エ 育児相談 江坂 1回 参加人数 12名

平成24年度から「保健師のなんでも相談」として複数館で実施していましたが、平成29年度は乳幼児の参加の多い江坂図書館で0、1歳児の幼児とその保護者を対象に実施しました。子育て支援として気軽に子育てについての質問ができる環境の提供を目的に、これまでブックスタートのひろば終了後に実施していましたが、平成29年度は子供の生活リズムを考慮して、単独行事として実施しました。

オ 親子で絵本とわらべうた 20回 参加人数 248名

※乳幼児とその保護者を対象に、絵本やわらべうたを楽しむ5回連続講座(中央で開催)

(2) 学校連携

平成29年度図書館見学等学校連携事業参加人数			
実績	2,606人	目標値	2,300人

【参加人数内訳】

事業等名称	回数等	参加人数
図書館見学(※1)	29回	1,842人
ごりまる学校訪問(※2)	2回	152人
学校訪問(※3)	8回	439人
職業体験(※4)	35回	173人

- ※1 図書館見学：学年単位で図書館見学を受け入れ、図書館の利用案内、パネルシアター、大型紙芝居、絵本の読み聞かせ、ブックトークによる本の紹介などを行う事業です。町たんけん授業や、職業インタビューも含んでいます。
- ※2 ごりまる学校訪問：自動車文庫の車両で、司書が学校を訪問して、図書館の利用案内、パネルシアターなど先生と相談し実施しています。
- ※3 学校訪問：図書館から各園・校に出向き利用方法の説明や、読み聞かせ、ブックトーク（本の紹介）などを行う。
- ※4 職業体験：市内の中学校から職業体験生を1回1校1～4人、1～3日で受入れ、貸出、返却などのカウンター業務の他、図書を書架に並べたり本にビニールフィルムを貼るなどの作業や絵本・紙芝居の読み聞かせなどの実習を行います。

ア 団体貸出 586件 9,094冊

イ ごりまる便 52校 1,794冊

※月2回自動車文庫のバスで団体貸出の本を学校に配達し、回収を行う事業です。

ウ 「もうよんだかな」セットの貸出 22校 5,160冊

過去の夏休み文庫で紹介した本（「もうよんだかな？」と「てくてく」に掲載分）を学年に合わせて40冊をセットにして学校に1学期間貸出しました。自動車文庫の車両で配達と回収を行いました。

エ リサイクル図書の移譲 16校 1,157冊

図書館で使わなくなった図書を、市民に提供する前に案内し移譲しました。

(3) 児童会館・児童センターとの連携

図書館で使わなくなった図書や雑誌を移譲し、資料の有効活用を図りました。出前講座を行いました。

(4) 講座・講演会の開催

平成29年度児童文学に係る講座・講演会等の参加者数			
実績	407人	目標値	430人

【児童文学に係る講座講演会参加者内訳】

ア 子どもと本の講座

(ア)「イタリア児童文学を楽しむために」 講師 吉富 文 氏

4回 参加延人数 145人

(イ)「住まいの絵本と出会う」

4回 参加延人数 90人

イ 講演会

「第34回子どもと本のまつり講演会」 講師 池田 正孝 氏

3月11日 参加延人数 89人

「ウォルター・クレインの絵本」 講師 正置 友子 氏

12月2日 参加人数 40人

ウ 後援事業

「編集者・翻訳家さくまゆみこ氏講演会」吹田子どもの本連絡会主催（子どもゆめ基金助成事業）

12月10日 43名

(5) 吹田市出前講座その他講師派遣

児童生徒の読書活動の振興を目的とする出前講座、講師派遣事業参加人数			
実績	1,145人	目標値	1,700人

【参加人数内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	6	7	0	4	2	5	3	6	1	34
人数	125	121	0	221	48	495	48	67	205	1,145

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

- [成果1] 図書館独自の子育て支援の講座に加え、公民館や児童センター、地域への出前講座、講師派遣を行い喜ばれています。依頼があれば必ず出かけていきます。
- [成果2] 地域館で各小学校の読書活動支援者との交流会を実施し、交流が深まりました。
- [成果3] 図書館のホームページの「学校支援のページ」を充実しPRに努めました。「ごりまる便」の受付などをホームページ経由にした結果、学校への団体貸出の件数や「ごりまる便」の利用がさらに増加しました。
- [成果4] 学研図書館部会への研修をはじめ、学校や幼稚園、保育園の先生が図書館を利用しやすいように毎年案内を送付しています。
- [成果5] 地域館より市内全小学校への図書室訪問を実施しました。
- [課題] 読書活動支援者を通じて学校へのサポートを継続していきます。貸出については、自動車文庫の車を活用するなど努力していますが、定期的な物流の確保が引き続きの課題です。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

- [成果1] 「赤ちゃん会」への参加など、地域の子育て支援を図書館としてサポートしている。各図書館でブックスタートのひろば、おひぎで絵本も恒常的に開催されている。同時に保護者への絵本の読み方やわらべうたの連続講座も開催されている。保健師の育児相談も江坂図書館で実施されている。
- 公民館、児童センターなどの連携とともに地域へ出前講座、講師派遣も取り組まれている。
- 「わが都市すいたの教育ビジョン：中間見直し版」でも放課後の子どもの居場所充実があげられている。図書館では以前からごりまる便活用の学校訪問など、取組みがすすめられてきた。図書館サービスがひとりひとりの子どもに届く努力がされている。
- 学研図書館部会への研修や図書館見学等学校連携事業など増えている。地域館での学校訪問も取り組まれている。
- [課題1] 吹田市においては、平成19年に策定された「吹田市子ども読書活動推進計画」が平成24年度に改訂されましたが、その後の取組みはありません。大阪府においては平成28年3月に子ども読書推進計画が策定され2020年度までにさまざまな読書活動に関わる取組みがなされようとしています。

大阪府内各市においても、第二次・第三次子ども読書活動推進計画が策定、実施されてきています。吹田市では今後どのように進められる予定でしょうか。できれば市民も加えての、子ども読書推進計画会議が設けられて、市民とともに計画案が策定されることを願っています。

いい図書館運営は、いい学校図書館の機能充実につながります。子ども読書活動推進計画の進め方もしかりと思います。子どもたちの読書環境づくりに公共図書館としてのサポートをさらにお願ひするところです。

〔課題2〕「わが都市すいたの教育ビジョン：中間見直し版」が示されている。総合教育会議を中心に全市的に教育ビジョンの実現に力を注いでいる。その中に図書館の存在、子ども読書の推進を全市的な取り組みとして位置付けて欲しい。社会の変化や情報化の中で子ども達にしっかりした力をつけるには読書環境の整備と読書を支える人材が必要だ。

公立小中学校図書館に読書活動支援員が配置されて、状況の改善は進んでいる。1校1名の専任配置と努力されているが、学校図書館の整備はやっと始まったばかりと考える。一人一人の児童生徒に図書館サービスが届くには不十分な状況である。図書館のみの努力ではさらなる進展はむずかしい状況なので、市民と行政が一体となったの事業推進が大切だと思う。特に組織面の整備、資料整理方法の統一等課題が多い。

〔課題3〕平成30年度より、「読書活動支援者」が市内全小学校に「1校専任」となりました。図書館との連携はなにより大きい。ただ、今の採用条件では年度途中で欠員がでるなど、不備が生じている。

	平成29年度 図書館事業評価一覧	自己評価	協議会評価
基本目標 1	地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。		
取組み	1 図書館施設及びサービス網の整備	A	A
	2 利用促進	B	B
	3 資料と情報の提供	B	B
基本目標 2	生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。		
取組み	1 施設や地域との連携	A	A
	2 自己実現の援助	A	A
	3 障がい者並びに来館困難者へのサービスの充実	A	A
	4 特色あるサービス	B	B

基本目標 3	子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。		
取組み	1 子ども読書活動支援センター機能の充実	B	B
総合評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>平成29年度は障がい者サービスの充実に重点を置き取り組みました。来館困難な人への本の郵送サービスを開始したり、知的障がい者の図書館利用の促進など、障がい者の図書館利用に際しての合理的配慮への取り組みに成果がありました。</p> <p>吹田市の他部局との連携で、サービスの充実を図りました。毎年好評の文化スポーツ推進室との運動講座の開催や市内LANでの図書館からの情報発信の効果があり、千里図書館では、地域経済振興室と連携して、起業コーナーを設置しました。</p> <p>中央図書館と北千里分室等の地域館拡充の施設整備については、今後も主体的に取り組んでいきます。</p> <p>学校との連携では、物流の確保が課題となっており、定期的な学校への配本方法を引き続き検討していきます。</p> <p>市民協働をすすめながら今後もサービスを展開していきます。</p> <p>【図書館協議会の評価】</p> <p>平成29年度に計画された取り組みを着実に進め、成果を上げています。更なるサービス向上のために、利用者として、成人市民、ヤングアダルト、子どものみならず、障がい者、高齢者、外国人、ビジネス利用者、行政職員に向けてのサービスを、今後とも充実させて行くことが重要です。</p> <p>また館別に立てている取り組み方針とその成果を明確にすると共に、お互いに成果を共有し、各館がその利用者の特色に併せたサービスを行うようにする必要があります。</p> <p>相対的に見て、吹田市立は図書館サービスが高い状態で維持されていると考えております。</p> <p>平成29年度はJR岸辺駅前の新図書館建設計画と</p>		

	<p> いう一大プロジェクトの進行もあったかと思えます。図書館分室が近所に設置されて喜ぶ住民や、分室が多過ぎると言う住民の方もいます。こういった意見をもっと多く発信してもらえよう、市民協働の範囲の拡充を望みます。そのためにも、他のアカデミックな研究グループに参加したり、吹田市の他部局との連携は大変効果的だと考えられます。学校図書館においても、学校全体で学校図書館を運営する姿勢のことを「チーム学校」と表現しています。これに倣い「チーム吹田市」として、図書館関係者内だけでなく行政と市民全体で図書館の方針を考え、運営することができれば欠点の無い図書館運営が実現できるでしょう。そのためには図書館運営に興味を持ってもらえる人を1人でも増やすことを目的としたアピールが広範囲に届くよう、発信力と広報力の強化が必要だと考えています。 </p> <p> SNSに関しては、どれだけ発信したかという量の評価も大事ですが、今後はどれだけ読まれたか、どれだけ拡散したかという質の評価も重視していただければと思います。各小学校・中学校側の図書館事業への協力が今一つ足りないと感じられるので、目に見える形での協力が得られるように対策を講じたい。大阪府内の他自治体と比較しても、吹田市立図書館は質の高いサービスを行っていると思う。図書館のネットワーク整備、実質貸出密度、資料費、予約数、相互貸借など全体的な運営に安定的なサービス体制に努力してきた。市行政の中でも市民に実感されやすい図書館サービスの関心は高い。 </p> <p> 第7期吹田市立図書館協議会では、平成29年11月30日「吹田市立図書館への要望書」をまとめた。その中でも公共図書館と学校図書館の連携が一番に取り上げられている。学校図書館のために市立図書館が努力している姿勢は評価できる。教育行政の重要な点として、全市的に取り組んでいただきたい。必要な時に必要な情報資料が学校現場で活用できるように、より一層の努力をお願いしたい。 </p> <p> また、吹田市立図書館協議会が平成27年11月「吹 </p>		
--	---	--	--

	<p>田市立中央図書館の再整備のあり方について」答申をした。市民参加の図書館協議会の意見が行政の中に届き、長年懸案であった岸部地区の整備が実現した。中央図書館の耐震工事が決まり、図書館システムの中核としてその機能が果たせるように、今後の議論に期待したい。</p> <p>法律にも定められた「子ども読書推進計画」は大阪府では平成28年3月に第3次を策定している。図書館だけのがんばりではできない大きな施策である。吹田市でも子どもに関わるすべての市民とともに歩める、次の『吹田市子ども読書活動推進計画』策定ための体制作りに取り組んで欲しい。</p> <p>子供たちは、本を読むことが大好きです。（もちろん読んでもらうことも）それは、幼少の時期のみならず小学生、中学生、高校生と年齢が上がって同じだと感じています。「心豊かな子供の育成」に欠かせない本。でも、その反面、小学校の図書室では、昔から親しまれている本があまり読まれず、意外と昔話を知らない子もいます。子供の読書活動をより進めていただくために市全体として関係機関と市民の連携の中で図書館の力に期待するものです。</p>		
--	---	--	--